

小規模多機能型居宅介護 和が家「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 パートナーステーション	代表者	小原 陽一	法人・ 事業所 の特徴	高齢者が慣れ親しんだ地域での生活が継続できるよう、人と人とが助け合い、1日1日が高齢者の生活にとって質・量ともに適切な支援が受けられ、また個人の尊厳ある生活が確保されていくことを目指します。 自然豊かな春光台に位置する地域性を活かし、毎日の生活の中で自然を感じながら、優しく穏やかな時間が共有できるよう共に過ごして行きたいと考えます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 和が家	管理者	高橋恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	4人	人	人	1人	人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	前回同様、継続して聴取を行うこととできるだけ目標達成できるよう取り組んでいく	介護記録を電子化したため書類の時間短縮になり本人聴き取りやケアの時間に繋がられ目標達成に取り組めた。	目標に具体的な手立て方策があるかと評価しやすく取り組みやすくなると思う。	介護記録で時間の短縮ができたことで更に介護の質の向上に向けて利用者様のADL維持、認知症の予防をする（レクリエーションの強化）
B. 事業所のしつらえ・環境	職員の入社時や会議等で、環境についても確認を行っていく（感染対策）	随時、感染状況を考慮し環境を整える事が出来た。	感染予防の環境を整えて対応しているので良いと思います。	職員、利用者様の感染予防に継続して留意し、ご家族や知人と会える機会を継続していく
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事やイベントの参加は継続していく。地域の方が気軽に来られるように明るい挨拶や入りやすい雰囲気作りに努める	地域のイベントは無かったため季節ごとや旬な食べ物などを堪能できるようドライブを多く行った。地域の方から来往や電話なども来ている。	コロナ対策しながら楽しんでいるのがわかる。対面ではない発信方法も今後充実するとよい。	コロナ感染状況をみながら、地域の皆さんに関心をもって頂けるようにしていく。（庭に花を植え、いつでも立ち寄れる場所とするなど）また、可能な限り町内会の企画に参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	継続して町内の活動に本人の意向を尊重しながら支援していく	町内の活動が行われてない状況だった。通いなどで馴染みの方々の触れ合う機会は設ける事はできた。	地域にSOSネットワークとして春光台全域で対応しているといえる。地域の方に目配り声掛けは継続してくれると助かる。	地域より小規模多機能型居宅介護和が家の利用者様と共に地域活動に参加していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	今後も2カ月に1回の運営推進会議を通じ、事業所報告、登録者及び職員と地域の皆様との情報共有に努める	和が家の現状を知ってもらえることができた。改善に向けてのアドバイスも頂き対応している状況にある。	地域との取り組みや事例検討はどのようにするかは具体案がないとできない事難しさを感じる。	会議で頂いたご意見を生かし地域に沿った活動・報告をしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	今後も地域住民の協力を仰ぎながら、避難訓練の実施を行っていく	年2回の避難訓練を実施、地震発生や停電時、風害の訓練も想定しての対応を行った。	訓練や対策は理解できた。安心して任せられ頼りにしている。	今後も年に2回の防災、災害対策を行い、地域の方に周知していく。